

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370280

研究課題名(和文)現代英米児童文学におけるフェミニズム童話の意義

研究課題名(英文)Feminist Fairy Tales in American and British Children's Literature

研究代表者

谷口 秀子(Hideko, Taniguchi)

九州大学・言語文化研究院・教授

研究者番号：70179092

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の主たる研究成果は、以下の通りである。

1. 主として1970年代から2000年代に執筆された英米のフェミニズム童話作品の調査・分析を行い、データベースを作成した。2. 比較対照のため、男装をはじめとするジェンダーにとらわれない女性像を含む英語圏および日本の児童文学作品(マンガ・アニメを含む)を調査・分析した。3. 上記1～2にもとづき、英米のフェミニズム童話作品の特徴と現代英米児童文学におけるフェミニズム童話の意義と位置づけの解明に努めた。4. 本研究の研究成果の一部を国際学会および国内学会(計8件)において発表した。5. 研究論文2件を発表した。6. 共著による研究書を発行した。

研究成果の概要(英文)：The chief results of this research project accomplished are as follows:

1. I have made a survey of contemporary American and British feminist fairy tales and have constructed a database. 2. For comparison, I have conducted research into other gender-sensitive works in English or Japanese which attempt to liberate the female characters from the restriction of conventional gender-roles. 3. I have examined the characteristics and the significance of feminist fairy tales. 4. I made eight conference presentations. 5. I have published two articles in journals and contributed an article to a research book.

研究分野：英文学、英米児童文学、児童文学、ジェンダー

キーワード：フェミニズム童話 ジェンダー おとぎ話 女性像・男性像 児童文学 アニメ・マンガ 語り直し
男装

1. 研究開始当初の背景

本研究課題「現代英米児童文学におけるフェミニズム童話の意義」は、研究代表者が従事している児童文学、マンガ、アニメなどに見られるジェンダーにとらわれない女性登場人物に関する研究の重要な一部を構成するものである。

本研究課題の研究を開始する時点で、本研究者は、継続して従事している児童文学(マンガ・アニメを含む)におけるジェンダーを越境する女性登場人物に関する研究の一環として、女性登場人物の男装の研究を行っていた。(谷口秀子「現代英米児童文学における男装 その意味と変遷」(基盤研究(C)2011年度~2013年度))

本研究者は、上記の研究(「現代英米児童文学における男装 その意味と変遷」)において、因襲的な女性像や固定的なジェンダーから女性を解放する装置としての女性登場人物の男装の本質に迫り、女性登場人物の男装は、女性に男性の振りをさせるという意味で、男性の記号を借りたジェンダー越境であり、男性の絶対的な優位性を前提としているため、その優位性を強化すらしていることを明らかにした。

また、本研究者は、児童文学において女性登場人物をジェンダーや男性中心的な価値観から解放する別の試みとして、フェミニズム童話にも関心を持って研究を行っていた。フェミニズム童話とは、1970年代から1980年代に北米とヨーロッパで盛んに創作された創作おとぎ話であり、この時期のフェミニズム童話の作者の多くは、1960年代以降の第二波フェミニズムの影響を受けており、男性中心の価値観にもとづく伝統的なおとぎ話に異議を唱え、ジェンダーにとらわれない、女性を中心に置いた新しいおとぎ話を作り出すことを目指した。

本研究者は、女性登場人物が男性の記号を借りてジェンダーを超える男装の物語とは異なり、フェミニズム童話が、女性や女性の価値観を物語の中心に置き、女性の優れた点を描くことによって、女性を家父長制的で因襲的な価値観やジェンダーから解放しようとする点に着目した。そして、本研究者は、現代英米児童文学におけるジェンダーにとらわれない女性像の提示の潮流におけるフェミニズム童話の特徴や意義や位置づけを明らかにする必要性を感じ、本研究課題を計画した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、男性中心的な価値観が多く見られる因襲的なおとぎ話のアンチテーゼとして1970年代と80年代を中心に英米において創作されたフェミニズム童話を、文化的・社会的背景を視野に入れて、ジェンダー

の観点から分析し、ジェンダーにとらわれない女性像の提示という現代英米児童文学の潮流において、この時期のフェミニズム童話がどのような意味をもち、どのように位置づけられるのかを、女性登場人物の男装を含む作品との関係性なども視野に入れて解明することである。

3. 研究の方法

本研究では、主に1970年代から2000年代に創作された英米のフェミニズム童話を対象に調査研究を行う。本研究において調査・分析の対象とするのは、フェミニズム童話のうち、主たる読者として子どもが想定されている作品である。

また、比較の対象として、男装の女性登場人物をはじめとする、ジェンダーを越境する女性像を含む英米および日本の作品(アニメ・マンガを含む)の調査分析を行う。

以上にもとづき、フェミニズム童話の分析と理論的考察を行い、フェミニズム童話の特徴と英米児童文学におけるフェミニズム童話の位置づけと意義を可能な限り明らかにすることを目指す。

具体的な研究方法は以下の通りである。

- (1) 主に1970年代から2000年代の間に創作された英米のフェミニズム童話作品の収集を行う。
- (2) 入手した作品に目を通し、ジェンダーの観点から、それぞれの作品における女性像・男性像を調査・分析し、データを集約する。その後、調査した作品の中から、特に重要と思われる作品を抽出する。
- (3) 比較検討の対象として、男装の女性登場人物をはじめとするジェンダーの制約にとらわれない女性像を含む英米および日本の作品(アニメ・マンガを含む)を収集し、分析を行う。
- (4) (1)(2)(3)と並行して、本研究の関連図書および文献の収集と分析を行う。収集する関連図書・文献の分野は主として以下の通りである。児童文学理論、ジェンダー論、フェミニズム、おとぎ話関連、異性装関連、女性史、現代史、文化史、社会学、社会理論など。
- (5) (1)(2)(3)(4)にもとづき、フェミニズム童話の分類と分析を行い、フェミニズム童話についての理論的考察を行う。また、現代英米児童文学におけるフェミニズム童話の位置づけと意義を、できる限り明らかにする。

- (6) 研究によって得られた成果を、段階的に、論文や口頭発表などで公表する。
- (7) 研究成果の一部を、講演などを通して社会に還元する。

4. 研究成果

本研究課題に関して、概ね、上記の研究方法によって研究を行い、以下の研究成果を得た。(「雑誌論文」などの表記における番号は、次項「5. 発表論文等」において記載した論文等の番号に対応している。)

- (1) 主に 1970 年代から 2000 年代に発表された英米のフェミニズム童話作品の収集を行い、入手できた作品について、分析を行い、ポイントとなると思われる作品を抽出した。また、抽出した作品を中心に、作品の内容の分析とデータベース化も進めている。
- (2) フェミニズム童話との比較対照のため、男装をした女性登場人物のような、因襲的なジェンダーの制約にとらわれない女性像あるいは因襲的なジェンダーから逸脱した女性像を含む英米および日本の児童文学作品(アニメ・マンガを含む)を収集し、調査分析を行った。

(2)に関連した研究成果を含む主な研究成果：

学会発表 「Fanny Campbell とその「娘」たち—*Fanny Campbell, the Female Pirate Captain* と *Girl in Blue* における男装のヒロインを中心に」(2014): *Fanny Campbell, the Female Pirate Captain* における男装して海賊となったヒロイン Fanny のイメージが、男装の女性の活躍を描く物語の中でどのように受け継がれているかをヤングアダルト小説 *Girl in Blue* などの児童文学作品を対象に分析した。

学会発表 「ジェンダー越境の模索『おかあさま』における礼子の「男装」を中心に」(2014)：少女漫画黎明期に発表された『おかあさま』における「僕／ぼく」と自称する女性登場人物によって示されるジェンダー越境性について論じた。

- (3) フェミニズム童話との比較検討のため、女性登場人物にジェンダーを越境させ

ることを試みている日英米の作品の収集と分析を行った。ジェンダーにとらわれない女性登場人物を描く作品のうち、フェミニズム童話に見られる女性像や女性の連帯などのフェミニスト的なメッセージに類似したものを含む英米および日本の作品(アニメ・マンガを含む)を調査し、分析を行った。

(3)に関連した研究成果の一部を含む主な研究成果：

雑誌論文 「現代児童文学における「虫めづる姫君」の語り直しと再構築」(2016):『堤中納言物語』に収録された「虫めづる姫君」におけるヒロイン像を分析し、このような、因襲的な女性の生き方を強いられることに反発する賢く自己主張するヒロインが、現代の作者たちによって支持され、賢く主体的で活動的なヒロイン像として再構築される過程を分析した。

雑誌論文 “*The Marvelous Village Veiled in Mist and Spirited Away*” (2016):『千と千尋の神隠し』における普通の少女が主体的で強い女性像へと成長する過程について、このアニメに影響を与えたといわれる『霧のむこうのふしぎな町』との比較対照において分析した。

学会発表 “Children’s Literature as Remedies for Children: The Child Misfit and the Adult Healer and Mentor in *The Witch of the West Is Dead*” (2017)：祖母と孫娘のユートピア的な閉じた空間における孫娘の癒やしとエンパワメントについて論じた。

学会発表 “The Representation of the Child and Childhood in *The Princess Who Loved Insects*” (2015)：「虫めづる姫君」において、無邪気に振る舞うことのできる子ども時代の終わりを迎えつつあるヒロインが、大人の女性としての身だしなみや振る舞いをすることを拒否する態度は、大人の女性としてジェンダーの制約に縛り付けられることに対するヒロインの強い抵抗感のあらわれであることを論じた。また、現代における、この賢く主体的で自己主張を行うヒロインに対する評価についても論じた。

- (4) 研究課題の関連文献として、ジェンダー論、女性史、おとぎ話、現代史、文化史、異性装関連、社会学、社会理論、児童文学理論、アニメ・マンガ研究な

どに関する文献を収集し、文化的社会的な背景を考察した。

- (5) 得られた研究成果をもとに、フェミニズム童話に関する論考を発表した。

(5)に関連した研究成果の一部を含む主な研究成果：

学会発表 「フェミニズム童話と「アリス」」(2018): Lewis Carroll による *Alice's Adventures in Wonderland* と *Through the Looking-Glass* を翻案したフェミニズム童話 *Alice in Thunderland* に見られるフェミニズム的な主張と本作品のフェミニズム童話としての意義と問題点について論じた。

学会発表 「おとぎ話の転覆とフェミニズム童話」(2016): フェミニズム童話における西洋の伝統的なおとぎ話に見られるジェンダーや男性中心的な価値観の転覆について論じ、その効果と問題点について論じた。

図書 『グリム童話と表象文化 モティーフ・ジェンダー・ステレオタイプ』(共著)(「おとぎ話とフェミニズム童話」の章を担当)(2017): フェミニズム童話が西洋の伝統的なおとぎ話に見られるジェンダーを転覆させジェンダーにとらわれない女性像を提示することを検証した上で、おとぎ話とフェミニズム童話の間テキスト性やフェミニズム童話のもつメッセージ性について論じた。また、ある種のフェミニズム童話が内包する問題点(男性像)を指摘した。

- (6) 国内外の学会において、上記(1)(2)(3)(4)(5)の研究成果の一部を含む内容の研究発表を行うとともに、学会において多くの研究者と研究に関する意見交換を行い、資料の収集を行った。

- (7) 自治体の市民向け講演を通して、研究成果の一部を社会に還元した。

(7)に関連した研究成果の一部の社会への還元：

講演 「ディズニー作品に見るヒロインの変遷 シンデレラからモアナまで」(2018)

以上の研究活動により、現代の英米の児童文学におけるフェミニズム童話の意義について、多角的な観点からある程度明らかにすることができた。また、現代英米児童文学におけるフェミニズムの位置づけについても、その概要を把握することができた。今後は、本研究課題の研究の遂行において得られた知見や研究成果を集約した上で、さらなる研究を行い、総括的な論考の構築を目指す予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

谷口秀子 「現代児童文学における「虫めづる姫君」の語り直しと再構築」, 『日本ジェンダー研究』(日本ジェンダー学会), 19号, pp. 73-86, 2016年. (査読あり)

Hideko Taniguchi (谷口秀子) “*The Marvelous Village Veiled in Mist and Spirited Away*”, *Linguistic Science*, Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University, no. 51, pp. 1-8, 2016. (査読なし)

[学会発表](計 8 件)

谷口秀子 「フェミニズム童話と「アリス」」, 日本ルイス・キャロル協会例会, 2018年3月31日, タワーホール船堀(東京都). (査読なし)

Hideko Taniguchi (谷口秀子) “Children’s Literature as Remedies for Children: The Child Misfit and the Adult Healer and Mentor in *The Witch of the West Is Dead*”, The 23rd Biennial Congress of the International Research Society for Children’s Literature, 2017年8月2日, York University, Canada. (査読あり)

谷口秀子 「おとぎ話の転覆とフェミニズム童話」, 日本語ジェンダー学会第17回年次大会, 2016年6月18日, 群馬大学荒牧キャンパス. (パネリスト)

Hideko Taniguchi (谷口秀子) “*The Marvelous Village Veiled in Mist and Its Influence on Spirited Away*”, Kyushu University and University of Arizona Symposium: Topics in

Language and Culture, University of Arizona, 2016年3月21日, University of Arizona, USA. (査読なし)

谷口秀子 「子どもの本とジェンダー表象 近年の絵本を中心に」, 2015年文化の越境とジェンダー国際シンポジウム, 2015年10月31日, 上海交通大学(中華人民共和国).(査読なし)

Hideko Taniguchi (谷口秀子) “The Representation of the Child and Childhood in *The Princess Who Loved Insects*”, The 22nd Biennial Congress of the International Research Society for Children’s Literature, 2015年8月10日, University of Worcester, The United Kingdom. (査読あり)

谷口秀子「Fanny Campbell とその「娘」たち—*Fanny Campbell, the Female Pirate Captain* と *Girl in Blue* における男装のヒロインを中心に」, 日本イギリス児童文学会第44回研究大会, 2014年11月29日, 文教大学越谷キャンパス.(査読なし)

谷口秀子「ジェンダー越境の模索 『おかあさま』における礼子の「男装」を中心に」, 日本語ジェンダー学会第15回年次大会, 2014年6月21日, 北九州市立大学北方キャンパス.(査読あり)

〔図書〕(計1件)

大野寿子, 野口芳子, 谷口秀子, ハインツ・レレケ, ベルンハルト・ラウアー, 浜本隆史 他 17名 『グリム童話と表象文化 モティーフ・ジェンダー・ステレオタイプ』, 勉誠出版, 432pp, 2017. (「おとぎ話とフェミニズム童話」の章を執筆)

〔その他〕(計1件)

(1) 研究成果の社会への還元

講演

谷口秀子 「ディズニー作品に見るヒロインの変遷 シンデレラからモアナまで」, 子育てが変わる! 人生が変わる! “らしさ”の魔法を解く講座, 2018年2月22日, 糸島市男女共同参画センター・ラポール.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷口秀子 (Hideko Taniguchi)
九州大学・大学院言語文化研究院・教授
研究者番号: 70179092